日本医療機能評価機構認定病院
那珂川病院だより
病院理念 ― 思いやりそして努力　奉仕そしてよろこび
VOL.57 平成26年5月
〒811-1345 福岡市南区向新町2丁目17-17
TEL.092-565-3531（代）
FAX.092-566-6460
http://www.nakagawa-hp.com
（携帯電話でもご覧いただけます）

地域医療の収斂

那珂川病院 院長　下川 敏弘

今年も足早に桜が散り、GWが終わるとすぐにあの暑さが戻ってきます。今年の電力は大丈夫なのでしょうか。心配することしきりです。

4月から診療報酬改定が行われ、これまで過剰といわれていた7：1病床に対して大鉈が振るわれました。入院患者さんの重症度や自宅復帰率や平均在院日数などのハードルが一段と高められ、大病院でもベッド数を維持しながら病棟機能を継続するのは困難ではないかと思われる程です。当然のことながら当院のような地域に根を張ろうとする病院では多くの重要な検討を行っていく必要があります。経過措置期間が9月まで取られており、それまでの実績を検討し、方向性を見いださねばなりません。

また、在宅診療において、施設単位でまとめて訪問診療を行っていた場合が厳しく見直されました。減額されても必要な診療ならば継続するしかありません。現場での創意工夫を重ねていくしかないのでしょう。今回の改訂では地域医療が大きく揺さぶりをかけられ、より適正化、より効率化を目指すような強制力が働いているようです。医療体制の公平性維持のために診療担当規則にまで手を入れたことは厚労省の意気込みを感じます。

キブシ

こんな中に一昨年までは当院しか施設を持たなかった社会医療法人喜悦会は徐々に広がりを見せています。昨年1月にデイサービスセンターを、6月には在宅支援センターを、そして今年の3月には療養型病院を仲間とすることができました。さらに10月には老人ホームの開設を予定しています。仲間となった病院の名前は二日市中町病院といいます。創設者の竹島新先生は当院創設者の井上繁孝先生の友人とのこと。また、当院発祥の筑紫医師会所属でもあります。様々なご縁があり、このような動きになったものと思います。二日市の地で地域に貢献するために、新たな課題をいただいたことに感謝しつつ、問題解決に楽しく頭を悩ませています。

医療・介護というサービスを患者さんや利用者さんに喜んでいただけるように提供することが大事です。顕著な労働集約型産業である医療は人が重要です。多くの人がその能力を充分に楽しく発揮できる場でなければなりません。その場を創りあげ提供することが、社会医療法人喜悦会の使命だと思っています。さらに多くの方々の支援や協力が必要となります。よろしくお願い申し上げます。

緩和ケアだより

母を在宅で看取って

河野　久美子

平成24年のクリスマスの頃、母は、いつになく風邪症状が長引き、それまでできていた散歩や家事ができなくなりました。病院を受診し、平成25年1月4日、肝細胞癌と診断されました。病状は母にも説明され、高齢であり積極的な治療は適応ないと言われ、母も交えて先生と相談し、緩和ケアを受けることを決めました。母が「余命ははっきり言ってくれ」と言い、先生からは「数カ月」と聴いていたのですが、母には「1年くらい」と答えました。

慌てることも取り乱すこともなく「紙と鉛筆を出して」と言って身の周りのことを整理する内容を書いて私に託しました。また、母のお姉さんや亡き父のお姉さんや、お友達に会いたいと連絡を取って会っていました。死に対して母は「人間死んだらそれで終わり」と言って、通常の人と比べたら、ドライに冷静に死を受け止めていたようでした。

2月15日、入院のきっかけとなったのは、インフルエンザにかかってしまったことでした。入院後、少しずつ体のきつさも増し、家に帰っても私に迷惑をかけたくないと言って入院の継続を望みました。でも、黄疸が目立つようになり、「もう長くない」と自分の死期を口にするようになった頃より、「最後に家に帰りたいなあ」などと言い始めました。私が「帰る？」と聞き返すと「私に期待をもたせないで」と言っていました。入院中はリハビリが楽しみで、歩行器で歩くことができていました。「何かあれば病院に戻れる」と言われ、母の願いでもある自宅への外泊が三泊の予定で決まり、外泊中の訪問看護を依頼し準備を進めました。食道静脈瘤があったので、吐血があれば病院に戻るつもりでした。しかし、外泊後、母と最期をどこで迎えたいかということで語り合い、「家がいいー」と言った言葉が心に残り、そのまま病院に戻らずに自宅で看取ることを決心しました。自宅看取りについては、以前「在宅ホスピスを語る会」に参加して知っていました。訪問看護を利用することになっていたので、それに訪問診療をお願いして体制を整えました。

自宅で過ごす中で、最期まで会話は十分にできましたが、体のきつさが強く、薬の効果はあまり無かったように思えました。孫2人の娘家族のことをいつも心配し、生活費を確保してくれて、「苦労しているから、あんたは幸せにならんといかん」と頭を撫でてくれました。看病をする中で辛かったのは、母が苦しそうにしている様子を見る時でした。看病に対しては辛いとは思いませんでした。でも、腹水がたまり寝返りもできなくなった時に、おむつを取り替える時の要領が分からず苦労しました。

そして看取りが近付いた頃は、「息をしているのかなあ」と思うことが多くなりました。母が苦しむ時間が少なくなったことで、安堵の気持ちと同時に冷静に死を受け止めることができていました。遠方にいた兄は母の死を受け止めていないようで、取り乱している様子でした。主治医からホスピスの説明を聴いても、治療できるところを探していました。

3月22日、看取りは映画のワンシーンのようでした。手を握っていたら、母が強く握り返すこともありました。「聞こえる？」と尋ねると、頷いていました。父の時には言えなかった「ありがとう」と声をかけることができました。孫もおばあちゃんの死にゆく姿を見ることができました。

看取りを終え、先生の確認が終わり、親戚が帰った後、とてもさびしく思いました。でも、父の時は病院で最期を迎えたので、ただ慌ただしく落ち着かなかったのですが、母の時は自宅だったので慌てることはありませんでした。本人と、お別れした後のことを準備していたこともよかったと思います。今思うことは、家だと、家族がリラックスできていて疲労感がありませんでした。病院だと、何をするわけでもなかったのに疲れていました。

自宅で看取ることなんて思ってもいなく、母にとっても良かったと思います。すごく良い死に方でした。仕事を持っている人の場合、看病をどうしているのかなと思います。日常生活の中でふと「母がいなくなったんだなあ」と思うことが増えました。今の生活を支えてくれているのは友達で、よく一緒にランチに行っています。周りの人たちから、「よく頑張ったね」と言われ、満足気分であり、達成感を感じています。

平成26年2月22日
「在宅ホスピスを語る会」のスピーチから

緩和ケア統計2013年（1月1日～ 12月31日）

入院相談		340件
緩和ケア病棟（定床　1月～9月　20床、10月～12月　24床）		
入院件数	258件（227名）	
退院件数	253件（221名）	
平均在院日数	28.7日	
1日平均患者数	20.2名	
在宅ケア		65名
在宅看取り	30名	
緩和ケア病棟入院患者　227名の内訳		
年齢	35 ～ 97歳（平均 73）	
男女比	128：99	
疾患名	肺癌	45
	胃癌	29
	肝癌	24
	膵癌	24
	大腸癌	23
	胆嚢癌	7
	食道癌	6
	子宮癌	6
	悪性リンパ腫	6
	原発不明癌	6
	その他	51
紹介元の医療機関	九州がんセンター	81
	当院	22
	福岡赤十字病院	20
	九州医療センター	14
	九州中央病院	13
	福岡徳洲会病院	13
	九州大学病院	9
	福岡大学病院	8
	樋口病院	5
	その他	42
患者住所	福岡市南区	70
	春日市	46
	那珂川町	39
	大野城市	28
	福岡市博多区	12
	福岡市城南区	5
	その他	27

ボランティアだより

今回は手作りのデザートを提供くださる、ボランティアスタッフの活動内容をご紹介します。

活動日時は毎週月曜日14:00～16:00まで、メニューはゼリーやプリン・ムースなど患者さんが食べやすいものを考え、見た目にもきれいに盛り付けられています。日頃は食欲のない患者さんも、ひと工夫された手作りのデザートはとても喜ばれます。4階病棟で5月に行われる「デザートビュッフェ」では、ゼリーなどに合わせてシフォンケーキなども作られ、5・6種類のデザートがテーブルに並びます。

活動は基本的にお一人でされていますが、最近は二胡演奏のボランティア山部さんが応援に来てくださり、患者さん・ご家族への提供や片付けなどを手伝いながら、二胡の演奏もされます。美味しいデザートを食べながら、二胡の音色も楽しめる素敵な時間です。

当院緩和ケア病棟では元来行われている『健康教室』の一環として―**末期がんになったらどうする？**―と題し、地域の方々や、医療者に向けて緩和ケアの勉強会を下記日程にて開催いたします。

「ホスピスって何？」と思われている方、ボランティアに興味のある方も、ぜひご参加ください。

●【健康教室―末期がんになったらどうする？―】

期　日	テーマ・講師
平成26年 9月20日（土）	『緩和ケアとは』 ●緩和ケア病棟師長　植木昭代
平成26年 10月18日（土）	『身体症状の緩和』 ●緩和ケア病棟医長　原口 勝
平成26年 11月15日（土）	『精神的ケア・スピリチュアルケア』 ●緩和ケア病棟師長　植木昭代
平成26年 12月20日（土）	『家族ケア』 ●臨床心理士　髙﨑 彩
平成27年 1月17日（土）	『社会的援助・チームアプローチ』 ●訪問看護師主任　松下徳代 ●管理栄養士　林田由美子 ●ソーシャルワーカー　担当者
平成27年 2月21日（土）	『ボランティアとは』 ●福岡ホスピスの会　神谷佳子

会場　那珂川病院／5階研修室
時間　11:45～12:45
問い合わせ　ボランティアコーディネーター　山下 公子（ひろこ）

体を健康にする金芽米の力

香川大学医学部　客員准教授　稲川裕之

金芽米というお米

皆さんご存じのように玄米にはビタミン、ミネラル、食物繊維が豊富で、健康食品として大変なじみのある食べ物です。ところが、どれほど食べられているかというと、日本のお米の数%程度に過ぎません。それは、玄米はぼそぼそしていて、おいしくないから（繊維が多い）ということと、炊飯するのに手間がかかる、という理由が多いようです。実際に、脂肪分の影響で疎水性もあるため、白米用炊飯器で炊くとアルファ化が不完全となり、そのため、消化が悪く、食感も悪い欠点があります。これをお読みの方でも、誰かに勧められて食べ始めてみたものの、長続きしなかった方も多いのではないでしょうか。

玄米から糠層と胚芽を除いて白米（デンプン層）にするのが精米です。白米のすぐ外側にある層を亜糊粉層といいます。亜糊粉層にはお米が次の世代として成長するためにデンプン層を分解してエネルギーを取り出すための酵素や、成長のためのビタミン、ミネラル、種（たね）を守る食物繊維が豊富に含まれています。

玄米から何層もある糠層を削って、わずか数ミクロンという薄い亜糊粉層を残した奇跡的といえる(株)東洋ライスの精米技術で作られたお米が『金芽米』です。このお米は玄米の健康成分を残した新しい精米の種類になります。ですから、例えば『新潟県魚沼産のコシヒカリの金芽米』や『北海道のきらら397の金芽米』などを作ることができます。

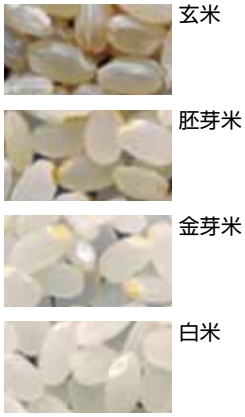
金芽米には優れた点がいろいろとあります。その第1は、美味しさです。お米を水につけておくと、亜糊粉層に含まれる酵素が働いて白米部分が少し消化されてうまみが増えてきます。子供ほど味に敏感ですから、食べ比べの実験をしてみると小さな子供は100%当てるそうです。

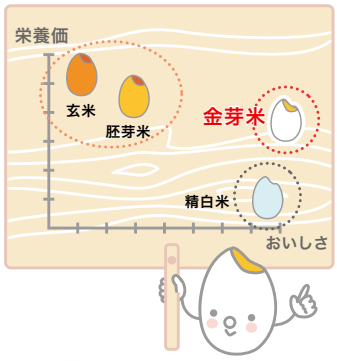
なお、亜糊粉層を残したお米が金芽米と名付けられた理由ですが、これは金芽米ご飯をよく観察してみて下さればわかります。お米の胚芽の下には胚盤と呼ばれる黄色い部分があります。亜糊粉層を残すために丁寧に糠層を除いていったことで、胚盤が残り普通のお米よりも胚盤（金芽）が多く残っています。お米の粒の上に、とても小さな金色の芽が見えませんか。それが金芽米の名前の元です。

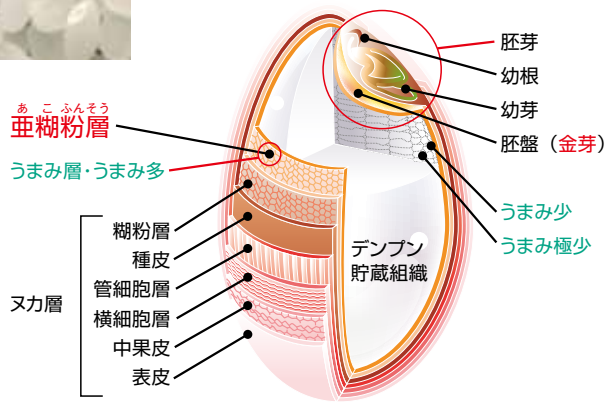
金芽米の優れた点

金芽米にはビタミンE、ビタミンB1、食物繊維、マルトオリゴ糖が白米に比べて各4.5倍、2.9倍、1.6倍、2.9倍も多いことがわかっています。ですから、栄養成分が豊富な、玄米の有用性を残したお米といえるものです。

実は、金芽米の機能には新しい発見がありました。私たちの研究で、自己治癒力を高める成分であるLPS（エル･ピー･エス、リポポリサッカライド）が白米よりも6倍も多いという結果です。LPSはマクロファージという免疫細胞を元気にしてくれる力を持っている一種の免疫ビタミンです。マクロファージは体にできる異物（酸化脂質、変性タンパク質、死んだ細胞、がんなど）を日々除いてくれています。マクロファージが元気でいれば、病気になりにくくなります。多くの研究結果からマクロファージの力が落ちると、体の異物がたまり生活習慣病やアレルギー、アルツハイマー病、がんになることが示されています。ですから、この細胞を元気にしておくことがとても大事です。そこで、金芽米を食べてLPSを多くとると健康を保つことができると考えられます。







当院の病院給食でも金芽米を採用しております。

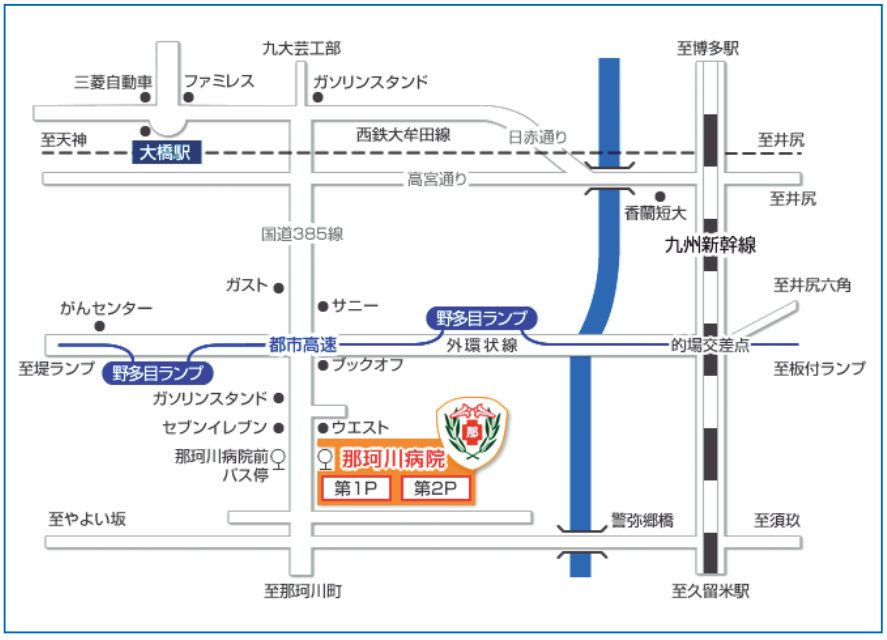
オレンジハウス清和　開設準備室

那珂川病院が運営する初めての住宅型有料老人ホーム（オレンジハウス清和）は、現在片縄バス停前の現場で、２階部分の工事の真っ最中であります。

10月１日のオープンに向けて、いよいよラストスパート開始の時期に突入いたしました。我々準備室のメンバー２名は、４月からチラシを持って挨拶廻りに各拠点（居宅介護支援事業所、包括支援センター、区役所、市役所、町役場、病院、医院、社会福祉協議会、公民館、同業他社施設　等）を訪問しております。

那珂川病院の特徴を打ち出して、充実した医療と、安心出来る介護を前面に、既存のホームにはない素晴らしいサービスが提供できる、地域ナンバーワンのホームを作りたいと思います。

オレンジハウス清和　開設準備室:鬼塚、中村



【交通】西鉄バス系統番号4番・47番・62番・620番「那珂川病院前」下車すぐ　■駐車場150台

常勤医師診療担当表

医師名	担当領域
下川　敏弘	消化器外科、呼吸器外科、透析
大国　貴史	消化器外科、透析、漢方
古賀　健資	消化器外科、呼吸器外科
吉村　寛志	大腸・肛門外科、消化器外科
宮脇　龍一郎	循環器内科
筒井　伸一	内科・消化器内科
大内田　敏行	放射線科
金宮　八重子	脳神経外科
原口　勝	緩和医療
古賀　善彦	リハビリテーション科（回復期）
熊澤　浩明	外科
福永　昌幸	麻酔科・外科・救急
竹内　一馬	血管外科・循環器内科
月江　教昭	緩和医療・内科
安藤　智恵	循環器内科
犬塚　貞明	緩和医療
藤澤　正寿	腎臓内科
斎田　光	整形外科

平成26年5月1日現在